

## 都立日野高等学校の開設（市制施行50周年特集③）

### 〈不足する高等学校〉

昭和30年代に入ると、東京都の人口は急増します。日野市が市制施行した昭和38年（1963）には、第一次ベビーブームの子どもたちが高校進学年齢に達し、同年度の公立中学校の卒業生は18万7000人を越え、戦後最多となりました。東京都では、昭和35年度から「高等学校生徒急増対策」を実施し都立高校の増設に努めましたが、私立高校の協力を得てもなお足らず、高等学校の不足は社会問題に発展していきました。

昭和39年12月、三多摩地域（北・南・西多摩）では、多摩地区公立中学校長連合会が、高校増設・教員の定員確保等を都議会に陳情しました。陳情の内容は、昭和40年4月までに、少なくとも5校、1000人を収容する高校を新設して欲しいというものでした。当時の三多摩地域は、二三区と比べ交通網や公共施設などの整備が遅れ、三多摩格差とよばれて是正の必要が叫ばれていました。教育面においても、二三区からの人口流入や高校進学率の伸びに対する対応が追いついていなかったのです。PTAも、都に対する同様の陳情を再三行いました。

### 〈日野市における高等学校誘致〉

日野市においても、都立高校の誘致について、積極的に活動を展開しました。まず、昭和39年10月の日野市定例市議会において、都立高校（普通科）誘致委員会が設置され、12月の都議会において、日野市・多摩町・稲城町合同提出の「都立高校の誘致に関する請願」が採択されました。

翌40年12月には、日野市石田に7107.69㎡の敷地予定地が決定され、用地取得のため、日野市においても地主への理解と協力を要請しました。12月28日には、都教育委員会は、都立学校設置条例・同施行規則の一部を改正して、日野高校の設置を確定しました。（同日付「東京都広報」）

### 〈日野高校の発足〉

昭和41年1月10日、日野市農業協同組合事務所別棟倉庫の2階（現生活保健センターの隣接地）を仮事務所として、都立日野高校が開設されました。まだ生徒のいない学校で、校長・教頭をはじめとする教員4名・事務職員4名の体制のなか、当時としては斬新なグレーのブレザーの制服が決定され、校樹・校章など、学校を象徴するものが次々と定められていきました。

2月22日には日野第一中学校で入学試験を実施、4月10日、都立立川高等学校（立川市）で第1回入学式が挙行政され、



日野高校の開校を知らせる「日野市広報」  
（昭和41年1月1日号）

一学年 401 名（男子 200 名・女子 201 名）が入学しました。

授業は、日野市三沢 689 番地（旧潤徳小学校跡地、現在の J A みなみ七生支店付近）に建てられた鉄筋プレハブ 2 階建 2 棟の仮校舎で行われ、2 学年がそろった翌 4 2 年 4 月、第一期工事が完成した現在地（石田 1 丁目 190）の本校舎に移転しました。また、同年 9 月には校歌が制定されました。昭和 43 年 4 月第 3 回生が入学し、ようやく 3 学年が揃い、学校としての体制が整いました。

現在、日野市には、日野台高校（昭和 54 年開校）・南平高校（昭和 60 年開校）の 3 校の都立高校がありますが、日野市に出来た初めての都立高校、日野高校は、中学校の先生や保護者たちをはじめとする地元の人々の熱い思いに後押しされて開設され、現在に至っています。

\*参考文献：『日野市史』通史編 4

『日野高校創立 20 周年記念誌』

（日野市郷土資料館 北村澄江）



開校当時の日野高等学校校舎（正門前より）